OUKA
Osaka University Knowledge Archive

Title	巻頭言
Author(s)	宮原, 秀夫
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1991, 80, p. 25-25
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65908
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

－ 巻頭言 －

大阪大学基礎工学部
宮原　秀夫
miyahara@ics.osaka-u.ac.jp

世の中には一度その味を覚えてしまうと止められないというものは色々あるが，ネットワークもそのうちの１つであろう．ネットワークの魅力は色々あり，実際に使ってみないと本当の良さは判らない．電子メールを例にとってみると，これを一言で言ってしまうと「端末間でメッセージを交換できるシステムである」ということになる．これを聞いたある人は「それじゃＦＡＸと変わらないし．むしろＦＡＸの方が便利だろう」というかもしれない．ある意味ではこれは当たっている．しかし電子メールには，やはり使ってみてはじめて判るＦＡＸでは得られないメリットがたくさんある．電子メール以外にもネットワークが提供するすばらしいサービスは色々あるが，それらについては本特集号の中で大いに触れられることと思う．

数年前から大型計算機センターが中心となって進めている大阪大学総合情報通信システム（ＯＤＩＮＳ）計画については，諸般の事情によりその実現が遅れているが，近い将来にこの計画が実施されるものと確信している．これまでの計画では，吹田・豊中それぞれのキャンパスに１００Ｍｂｐｓの光ファイバーによるループＬＡＮ（ＦＤＤＩ）を基幹ネットワークとして敷設し，これらの２つの幹線ＬＡＮを６Ｍｂｐｓの高速ディジタルのリーストラインで接続するといった考え方が進んできた．しかしここ数年の技術進歩により，今では数ＧｂｐｓのＬＡＮが実用化されつつある．そこではＦＤＤＩでは無理とされていた映像の転送も可能である．

従って，我々の計画もそれに合わせて変更すべきであると考え，１００Ｍｂｐｓから一挙Ｇｂｐｓへの計画変更可能かどうかについての検討を開始した．こうした場合に残る最大の問題点は，吹田・豊中間のリンクをどうするかということである．市販の回線ではその容量に限度があり，仮に複数本借りたとしても費用的にも大きな問題がある．最良の方法は，吹田・豊中間に自前の専用回線を保存することである．例えば近々その運用が開始されるモノレールに沿って光ファイバーを敷設する方法が考えられる．これを実現するには諸々の機関の了解を得るためかなりの交渉が必要であるが，実現可能性はあるとふんでいる．

いずれにせよ，このＯＤＩＮＳ計画を実現に移し，魅力あるネットワークを構築するには，まず学内の方々がこれに興味を持ち，ネットワークの必要性を十分に理解して頂くことが第一であると思われる．この特集号がいささかでもそれに役立つことを願っている．